

9月9日-10日にグリーンピア南阿蘇にて、サマー・リトリート・セミナーを開催しました。国内外から5名の講演者を招き、総勢114名の研究者が南阿蘇に集まり、活発な議論と交流を図りました。1日目は午後から口頭発表、夕食後のポスターセッションは打ち解けた雰囲気です。2日目は朝から口頭発表とディスカッションが行われました。サマー・リトリート・セミナーに参加したG-COEリサーチ・アソシエイト・山口泰華さんの体験レポートをお届けします。

Own Fate Determination in the Cell Fate Regulation Meeting

細胞の運命機構に関する集会で自身の運命の選択

今回、1歳半になるやんちゃ始まり？の息子と共に、サマー・リトリート・セミナーに参加しました。研究集会中は手配していただいたベビーシッターの方たちに助けていただき、また、学生さんのご協力のもと、宿の温泉にも阿蘇の山々を見ながら息子と一緒に入浴できて、リトリートセミナーを満喫することができました。

私は、ここに来る前にオーストラリアのシドニーに留学しており、海外の学会などでは子連れの参加者が多いことに驚かされていました。当時の日本では考えられないことでしたが、最近では、今回のリトリートセミナーのようにサポートをしていただける機会が増えてきているので、積極的にセミナーなどに参加することができるようになりました。

阿蘇でのサマーリトリートのように、自由な発想を生み出すため大自然の中で行われる研究集会はオーストラリアにもあり、田舎のワイナリーの合宿所で小規模なミーティングが行われています。このミーティングは、海外の大御所と呼ばれる先生方と選ばれた若手研究者との計30人程で大自然の中で行われます。人数が少ない

ので、集会中に自然と互いの顔を覚えてしまいます。また、全員が自己紹介代わりに発表を行うことで、その人がどんな人物なのかを感じることができ、打ち解けることもできます。そういうわけなので、若手研究者全員に大御所から直接アドバイスをもらえるチャンスも増えます。その点では、リトリートセミナーでも、ポスターを貼るだけではない発表交流の場をより多く取り入れられるとよいと感じました。

合宿型の研究集会の利点は、学会では口もきいてもらえないような大御所と、研究の話ばかりでなく雑談する機会も得られることです。その先生が、実は子育てに苦勞していたり、無類のワイン好きだったりして意気投合し、一研究者同士としてだけでなく、人間同士として縦横の繋がりができ、'Cell fate regulation(細胞運命調節)'の話をしに行くと、'determining one's fate(自身の運命決定)'につながるような出会いのチャンスを生みます。このリトリートセミナーでの経験をもとに、私自身もこの先の研究生活のfateが決められるように頑張っていきたいと思います。

G-COEリサーチ・アソシエイト 山口泰華

